



炉端の会  
2018.08

# 「炉端の会」のひとり言-1

◇6月16日、旧原家2階で第18期フォローアップ研修が開催されました。

活動を始めて数ヶ月が経ち、各々やりたいことが具体化してきた時期でもあります。18期の21名が参加し、様々な感想や意見が交換されました。

囲炉裏の火を見ていると落ち着く、窓の外は緑が映えて美しい、鳥の鳴き声、植物の美しさ、全てを包括するこの古民家のある空間が「癒やしの空間」になっていると、多くの参加者から話が出ました。

古い家の柱の削り跡に、いにしへの郷愁を感じた人も。中学生の来園者数人が、何を感じたのでしょうか、囲炉裏端で微動だにせず火を見ていたとの話もありました。

一方、煙が苦手ですらうしたらよいか？外国人の来園者に、言葉が通じず困った等々、さまざまな感想が出てきました。

参加者に共通していることは、前向きな姿勢でしょうか。古民家の存在した時代・暮らし方等に思いを馳せ、自分の世界を広げている様に見受けられました。



(フォローアップ研修の様子)



(参加された18期の方々)

◇7月7日、佐々木家で七夕の飾り作りと飾り付け体験が行われました。

佐々木家の前庭に2本の竹を、井戸の横には短冊と筆記用具が準備されました。佐々木家の座敷では、炉端の会の会員や園の職員が、来園された方に網飾り、吹き流し、紙衣の作り方を教えていました。

来園された皆さんは、ここで作った飾り物や願い事を書いた短冊を竹に結び付けていました。飾りがつけられた竹は、佐々木家前に立てられました。







# 「炉端の会」のひとり言-2

◇7月18日、展示チームによる北村家の盆飾り作業が行われました。

昨年までは、川崎(盆棚)・秦野(砂盛)で一般的に見られる形でしたが、今年は、日本民家園が編集・発行した「シリーズ暮らしと家2 民家の一年」(H30.03.1)発行を参考資料として、北村家で実際に行われていた盆棚と砂盛(ツジ)の飾り付けにチャレンジしました。

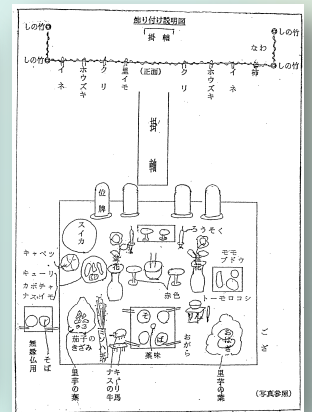
午後の猛暑のなか、園の職員と展示チームの方々など12名が参加しました。



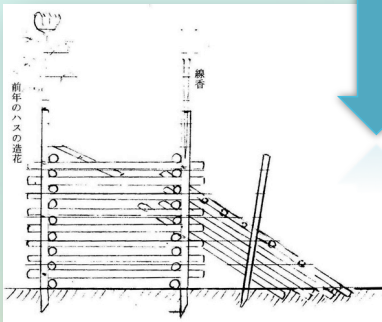
(昨年の砂盛の飾り付け)



(昨年の盆棚の飾り付け)



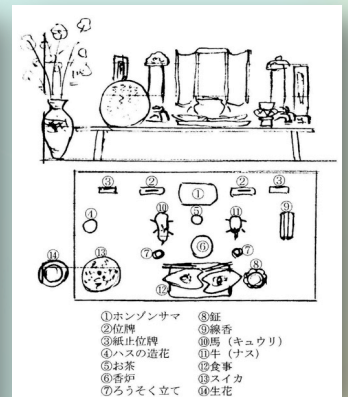
(昨年の盆棚飾り付け図)



(今年の砂盛図)



(今年の盆棚の飾り付け)



(今年の盆棚飾り付け図)



(今年の砂盛飾り付け)



(作業に参加されたの方々)

\*昨年までの飾り付けと比べると、全体的にとっても質素で素朴な感じがします。